

近況報告

博士前期課程二〇一二年修了

高木 翔太

まず簡単に、自己紹介させていただきます。卒業論文は「土佐の自由民権運動」、修士論文は「政治文化と自由民権——大分県を事例とした研究——」というタイトルで執筆をしました。つまり、近代史の自由民権運動を専門としていた（現在はあまり研究をしていませんので……）ものです。「ゆけむり史学」には、五号と六号に執筆をさせていただきました。

大学院在学時から、アーカイブズ学にも関心があつたため、歴史学だけではなく、アーカイブズ学に関する勉強にも努めていた結果、修了とともに運よく大分県公文書館で勤務することとなり、現在五年目を迎えています。また、休館日である月曜日には、別府大学の非常勤講師もさせていただいております。

そんな現状の私ですが、公文書館の勤務は、非常勤嘱託職員であるため、五年目が最後の年ということで、昨年は就職活動に励んだ一年でした。何かしらの縁があつてか、高校生の時に旅行に行き、「歴史に関する仕事をしたい!」と志すきっかけを得た高知で、学芸員として土佐山内記念財団に採用され、今年の三月からは、新しくオープンする高知県立高知城歴史博物館で勤務することとなっています。「ゆけむり史学」の愛読者の皆さま、先輩でも後輩でも一声かけていただければ、展示解説をしますので、ぜひ一度、高知城歴史博物館に遊びに来ていただければと思います。

広報活動はさておき、近況報告に戻ります。冒頭でも紹介したと

おり、自由民権運動が専門ですので、「自由は土佐の山間より」という言葉もある民権運動のメッカ、高知に居住し、働けることに心を躍らせています。しかし一方で、土佐山内記念財団が収蔵する近世文書を専門として取り扱っていくことに不安をもっています。

これまで、公文書の管理や明治期の私文書の整理などには務めてきたので、近代資料のくずし字、文章の言い回しなどには慣れていますが、近世文書の整理は各地で行われている資料調査への参加程度しかありません。さらにいえば、資料調査では地域の古文書である庄屋の文書などといったものは取り扱いますが、大名の文書などは出てくるはずもなく、博物館でしか見たことがないくらいです。で、一から勉強しなければと、勤務日を前に近世文書と睨めっこしながら現在頑張っている次第です。

今回、この近況報告を頼まれた際、五年間の公文書館での思い出を綴ろうとも考えましたが、自己紹介と近況報告だけでほとんど紙幅を使ってしまうました。最後に、主に公文書館でどんな仕事をしてきたかを箇条書きで紹介させていただきます。

一年目、「香川真二旧邸襖の下張文書」の解体整理。二年目、公文書の評価選別基準の作成。三年目、開館二〇周年記念行事（国立公文書館発行「アーカイブズ」(web版)に詳細)。四年目、大分県公文書館のfacebookページの開設。五年目、閉校になる小学校での資料調査写真資料の整理と展示（「大分市の昭和」も発行されました）。

その他、通常業務である窓口業務や公文書の整理、寄贈・寄託資料の受け入れなど、さらに、企画展などいろいろな行いました。これらすべての業務を問題なく行えたのは、別府大学で学んだ経験を活かされたからだと考えています。いつか機会があれば、博物館での近況を報告したいと思いますので、それではまた。